

大学院学生(平成6年度)

霊長類学専攻

氏名	学年	指導教官	研究テーマ
小林 隆	D5	加納隆至	都井岬の半野生馬におけるにおいづけ行動の研究
橋本千絵	D5	加納隆至	ピグミーチンパンジーの母子間関係
松村秀一	D5	加納隆至	スラウェシマカクの社会行動
揚妻直樹	D4	加納隆至	環境変動に対するニホンザルの適応行動
小川秀司	D4	加納隆至	チベットモンキーの社会行動
植木浩一郎	D4	久保田競	随意運動の発現機構の解明
花澤明俊	D3	久保田競	MT野神経細胞の時空間特性
田中 香	D3	加納隆至	ニホンザルの採食行動の群間比較
金沢 創	D2	松沢哲郎	ヒト及びニホンザルの表情認知
松元健二	D2	久保田競	行動発現にはたす前頭眼回及び帯状回の役割についての神経生理学的研究
嶋田 誠	D2	庄武孝義	オナガザル属の進化の集団遺伝学的研究
金 熙洙	D1	竹中 修	霊長類におけるY染色体遺伝子の分析
長谷川良平	D1	久保田競	作業記憶にもとづく眼球運動の発現における前頭連合野の働き
橋彌和秀	D1	小嶋祥三	霊長類における音声・聴覚の研究
山越 言	D1	杉山幸丸	チンパンジーの行動学的研究
近藤あや子	休学中		
Gurja Belay	M2	庄武孝義	ニホンザルの遺伝的変異性
栗田博之	M2	杉山幸丸	ニホンザルの1歳仔の行動と母・姉から

の投資

宮本俊彦	M2	木村 賛	下肢の運動と形態
岡本暁子	M2	杉山幸丸	チンパンジーにおける社会交渉の実験的研究
奥千奈美	M2	木村 賛	霊長類聴覚器官の機能と構造
山根 到	M1	久保田競	運動学習への運動性皮質の関与
福士珠美	M1	久保田競	視覚対象の認知にもとづく運動発現の脳内機構の解析
佐藤 明	M1	松沢哲郎	霊長類における因果推論の研究
田仲祐介	M1	久保田競	視覚系における異種情報の統合処理過程の研究
田代靖子	M1	加納隆至	ニホンザル老齡メスの社会交渉

研究概要

小林 隆

都井岬の半野生馬の行動学的研究
ウマの排せつ物に対するにおいづけ行動に関して、観察および野外実験を行うことによって、においづけの機能を調べる。

橋本千絵

チンパンジーの生態学的研究
ウガンダ・カリンズ森林に生息するチンパンジーの生態学的研究をおこなう。

松村秀一

ムーアモンキーの社会行動の進化
インドネシア・スラウェシ島においてムーアモンキーの野外調査をおこない、社会行動の進化に影響する諸要因を明らかにする。

揚妻直樹

環境変動に対するニホンザルの適応行動
食物環境および微気象の変動がニホンザルの採食行動と体温維持に与える影響を野外観察と実験を行うことにより明らかにする。

小川秀司

チベットモンキーの社会行動
中国安徽省のチベットモンキーの社会行動の研究を行う。

植木浩一郎

単純視覚性反応時間課題におけるGABA抑制の役割
大脳皮質の情報処理機構と伝達物質の役割を解明するため、神経細胞の活動の記録を行ったり、モデルの計算機シミュレーションなどを行った。

花澤明俊

MT野神経細胞の時空間特性
視覚的運動検出におけるMT野の役割を、その時空間特性から調べた。

田中 香

野生霊長類の採食生態
ニホンザル及びテナガザルにおいて、採食行動と群れの形態との関連を調査し、霊長類の群れの機能について考察する。

金沢 創

ニホンザルの表情認知
視覚探索課題を用いて、顔のどの部分の動きが「表情」を作り出すかを調べ、その認知の仕方が、ヒトとどのように違うかを比較検討した。

松元健二

視覚認知行動における前頭眼窩皮質の役割
視覚再認知課題遂行中、サルの前頭眼窩皮質からニューロン活動を記録、解析した。

嶋田 誠

グリベットモンキーの集団遺伝学的研究
エチオピア中央部の約600kmに渡る範囲のグリベットモンキー10集団の遺伝子頻度の違いより繁殖集団の構造を調べる。

金 熙洙

霊長類におけるY染色体遺伝子の分析
シーケンシングによりY染色体上の特定遺伝子の塩基配列を分析比較し、分子進化について考察する。

長谷川良平

作業記憶にもとづく眼球運動の発現に関する前頭連合野の働き
作業記憶にもとづいてサッカード眼球運動を行う際の運動方向の決定や保持、さらにその実行自体に前頭連合野がどのように関わっているのかを単一神経細胞の活動を記録することによって調べた。

橋彌和秀

霊長類における視聴覚の統合
チンパンジーとニホンザルについて、視聴覚間のクロスモーダルな情報処理の特性を実験的に検討し、ヒトとの比較をおこなう。

山越 言

野生チンパンジーの社会学的研究
ギニア共和国ボソウに生息するチンパンジー群を対象に、群内の個体間関係、近隣群との群間関係を研究する。

Gurja Belay

Genetic polymorphism of the sixth component of complement (C6) in Japanese macaques (*Macaca fuscata*).
Polymorphism of the component of complement (C6) in Japanese macaque was investigated using isoelectric focusing and immunoblotting techniques. One common allele and other rare variant alleles were detected.

栗田博之

ニホンザルの1歳仔の行動と母・姉からの投資
仔の性や母親の順位が仔とその母親や未成熟の姉との相互交渉におよぼす影響と、母親の次の繁殖におよぼす影響を調べた。

宮本俊彦

ニホンザル下肢骨の加齢変化について
ニホンザルの下肢骨が加齢とともに変化することを、年齢のわかっている標本を用いた計測により明らかにした。

岡本暁子

チンパンジー放飼集団の出会い場面における社

会交渉の実験的研究

屋外放飼場のチンパンジーを対象に、出会い場面に特徴的な社会交渉の至近的要因を、実験的操作を加えて観察することにより明らかにする。

奥千奈美

霊長類聴覚器官の機能と形態

霊長類の聴覚器官を比較解剖学的視点より形態描写を行い、あわせて心理物理学・認知心理学の成果を利用することで聴覚器官の機能の進化上の意義を解明する。

山根 到

運動学習への運動性皮質の関与

大脳の運動性皮質が、学習した運動の実行にどう関与するか、リーチング運動課題を学習したサルの運動野と運動前野にピククリンを注入し、どの様な運動が誘発されるのか調べた。

福士珠美

視覚対象の認知にもとづく運動発現の脳内機構の解析

異なる目標筋力レベルを指示する2種類の手がかり刺激に依存した筋力発揮課題において、サルが手がかり刺激の意味を認知して大小2種類の等尺性筋力をだしわけることが明らかになった。この課題を遂行中のサルの運動前野からニューロン活動を記録し、ニューロンレベルで筋力のだしわけのメカニズムを明らかにする。

佐藤 明

霊長類における因果推論の研究

継時的な情報を手がかりにした学習課題を用い、霊長類における因果推論の過程を検討する。

田仲祐介

視覚系における異種情報の統合処理過程の研究
視覚系において、形態視と運動視の相互作用がどのように物体の認識に関わっているのかを生理的に明らかにする。

田代靖子

ニホンザル老齢メスの社会関係とメスの共存機構
老齢メスの社会性がどのようにして保たれてい

るかを明らかにすることにより、群れ社会における他個体との共存機構を解明する。

総 説

—和文—

- 1) 金沢創 (1995): 認知科学は、本来的に比較研究を必要としている —D. マーの「計算論」の概念を用いて— 重点領域研究報告書「認知・言語の成立」, p.188-194
- 2) 橋彌和秀(1995): 霊長類における視聴覚統合研究の展望. 文部省科学研究費補助金・重点領域研究. 「認知・言語の成立」論文集, pp.206-218. 1995年3月.
- 3) 田中正之(1995): ヒト以外の動物におけるカテゴリー化研究の新しい試み. 文部省科学研究費補助金・重点領域研究「認知・言語の成立」論文集 pp.195-205.
- 4) 友永雅己・田中正之(1995): 弁別と統合 —チンパンジーの視覚認知の諸相—. 人類学輯報, 第52輯: 79-101.

論 文

—和文—

- 1) 揚妻直樹・杉浦秀樹・田中俊明(1994): 屋久島の世界遺産地域を通過する西部林道が自然環境に与える影響 霊長類研究 10:41-47
- 2) 木下昌也・田中正之・太田裕彦(1995): チンパンジー(*Pan troglodytes*) のT型指迷路課題解決. 人類学輯報, 第52輯: 71-78.
- 3) 小林隆・加世田雄時朗(1995): 発情メス, 非発情メス, 妊娠後期メスの尿に対するオスの反応の違い 馬の科学 32:17-22.

—英文—

- 1) Hill, D.A., Agetsuma, N & Suzuki, S. (1994): Preliminary survey of group density of *Macaca fuscata yakui* in relation to logging history at seven sites in Yakushima Japan Primate Research 10:85-93
- 2) Matsumura S., & Watanabe K. (1994): Sexual behavior and female reproductive cycles in a wild group of moor macaques (*Macaca maurus*). In J.J. Roeder, B. Thierry, J.R. Anderson, & N.

- Herrenschmidt (Eds.), Current Primatology, Vol. 2, Social development, learning and behavior (pp. 33-38). Strasbourg: Universite Louis Pasteur.
- 3) Ogawa H. (1995): Recognition of social relationships in bridging behavior among Tibetan macaques (*Macaca thibetana*). Am. J. Primatol. 35:305-310.
- 4) Yamakoshi, G. (1994): Pestle-pounding behavior of wild chimpanzees at Bossou, Guinea: A newly observed tool-using behavior. 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.107.
- Neuroscience 24th Annual Meeting (Miami, Florida, November, 1994). Abstracts 20: p.317.
- 2) Hasegawa, R., Sawaguchi, T. and Kubota, K. (1994): Prefrontal neuronal activity coding saccade direction during a delay period in an oculomotor delayed matching-to-sample task. Soc. for Neurosci. Abst., 20, 65.4.
- 3) Hashiya K. and Kojima S.(1994): Experimental Approaches to the auditory cognition in a chimpanzee (*Pan troglodytes*) using a matching-to-sample task. 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.407.
- 4) Hill, D.A and Agetsuma N. (1994): Preliminary survey of Yakushima macaques (*Macaca fuscata yakui*) in relation to logging history at seven sites. 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.132.
- 5) Kanazawa, S. (1994): Recognition of facial expressions in humans and a Japanese monkey, 15th Congress of the International Primatological Society, (Kuta-Bali, Indonesia, August 1994). Handbook & Abstracts: p.420.
- 6) Matsumura S. (1994): Ecology of moor macaques: Examination of the factors which influence "Egalitarian" relationships among females. 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.300.
- 7) Matsumura S. (1994): Agonistic interactions and post-conflict contacts among wild moor macaques (*Macaca maurus*). 15th Congr. Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p. 400.
- 8) Tanaka, M. (1994): Recognition of inter-object relationships in chimpanzees. The XV International Congress of Primatology. Abstracts pp. 420.
- 報告・その他
-和文-
- 1) 揚妻直樹・和田一雄・李保国(1994): 中国秦岭山脈の野生ゴールデンモンキー (*Rhinopithecus roxellanae roxellanae*) 霊長類研究 10:49-56
- 2) 橋彌和秀 (1994): Tools, Language, and Cognition in Human Evolution. (1993. Gibson & Ingold eds. Cambridge Univ. Press) 書評。日本動物行動学会ニューズレター NO.25. pp.29-32.
- 3) 橋彌和秀・小嶋祥三(1995): チンパンジーにおける視聴覚統合課題の学習。文部省科学研究費補助金・重点領域研究「認知・言語の成立」研究成果発表会。(1995年1月14日,東京)。「認知・言語の成立」報告書(2), pp.113-114. 1995年3月.
- 4) 松村秀一 (1994): 酒を飲むサル。モンキー, 255: 25.
- 5) 田中正之・松沢哲郎(1995): チンパンジーにおける情報統合。文部省科学研究費補助金・重点領域研究「認知・言語の成立」報告書(2) pp. 111-112.
- 学会発表等
-英文-
- 1) Hanazawa, A., Mikami, A., Kubota, K.(1994): Motion perception related neuronal responses to 1st- and 2nd-order components in area MT. Society for

—和文—

- 1) 揚妻直樹(1994):ヤクシマザルの活動時間配分と食品目目の関係. 第10回日本霊長類学会大会.(1994年6月,東京). 霊長類研究 10: 151.
- 2) 揚妻直樹 ニホンザルの休息場所選択 第13回日本動物行動学会. 1994年12月,大阪). 発表要旨集: p.44.
- 3) Gurja B., Shimada, M., Kawamoto, Y., and Shotake, T. (1994): Genetic variability of Japanese macaque (*Macaca fuscata*) of the Tsubaki troop, Wakayama. Primate Research (vol.10 No.2 pp.159).
- 4) 花澤明俊・三上章允・久保田競 (1994): 1次、2次運動成分に対するMT野神経細胞の応答性. 日本視覚学会1994年夏期研究会(1994年8月, 綾瀬, 神奈川). VISION, 6-3: 143.
- 5) 橋彌和秀・小嶋祥三(1994):チンパンジーの聴覚認知に関する実験的研究:新奇刺激導入時の反応に見られる概念的処理の可能性. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月,東京). 霊長類研究 10: 160.
- 6) 富士珠美・大築立志(1994):一定Foreperiodのくり返しが聴覚刺激に対する等尺性脚伸展力発揮に及ぼす影響.第4回日本体力医学会. 体力科学 43: 551.
- 7) 富士珠美(1994):陸上競技の経験の有無が聴覚刺激に対する等尺性脚伸展力発揮に及ぼす影響の違いについて.第4回東海体育学会. 発表抄録集 pp. 201.
- 8) 金沢創 (1994) :ニホンザルによるヒトの表情の認知-感覚性強化法を用いて-,第10回日本霊長類学会.(1994年6月. 東京). 霊長類研究 10 : 162
- 9) 金沢創 (1994) :サルはヒトの笑顔をどう見ているのか?,第58回日本心理学会.(1994年10月. 東京). 発表論文集 p.753
- 10) 金照洙・竹中修(1994):PCRによるヒト上科霊長類におけるY染色体DNAの進化. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月,東京). 霊長類研究10: 166.
- 11) 小林隆(1994): オスウマのメスの排泄物に対する反応とメスの性周期. 第13回日本動物行動学会. (1994年12月,大阪). 発表要旨集 pp.50.
- 12) 小嶋祥三・揚妻直樹・岡本暁子 (1994): 飼育下チンパンジーの出会い場面における音声. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月,東京). 霊長類研究, 10: 156.
- 13) 栗田博之 (1994): ニホンザルにおける母子間関係 -母親の順位・出産経験・子の性による違いはあるのか- (予報). 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月,東京). 霊長類研究, 10: 153.
- 14) 松村秀一 (1994): 「血縁びいき」しない? -ムアモンキーの社会交渉- 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月,東京). 霊長類研究 10: 154.
- 15) 松村秀一 (1994): スラウェシのムアモンキー. 第103回中部人類学談話会(1994年7月,名古屋).
- 16) 小川秀司(1994): マカク属におけるブリッジング行動. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月,東京). 霊長類研究 10: 125.
- 17) 岡本暁子・小嶋祥三・揚妻直樹 (1994): 飼育下チンパンジーの出会い場面における社会的交渉. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月,東京). 霊長類研究, 10:155.
- 18) 岡本暁子・小嶋祥三・揚妻直樹 (1994): チンパンジーの放飼集団における挨拶行動. 日本動物行動学会第13回大会(1994年12月,大阪). 発表要旨集: p.41.
- 19) 鈴木滋・Hill D.A.・古市剛史・揚妻直樹・Sprague D.S. (1994): 屋久島、ニホンザルオスの移籍と生活史. 第10回日本霊長類学会大会.(1994年6月,東京). 霊長類研究 10: 127.
- 20) 田中正之(1994): チンパンジーにおける物体間関係を手がかりとする見本合わせ学習.第10回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 10: 159.
- 21) 田中正之(1994): チンパンジーにおける線画のカテゴリー化様式. 日本心理学会第58回大会. 発表論文集 pp. 651.
- 22) 田中正之(1995): チンパンジーによる親近性に基づく分類. 日本発達心理学会第6回大会. 発表論文集 pp. 75.
- 23) 田代靖子 (1994): 嵐山E群におけるニホンザル老体メスの社会交渉. 第10回日本霊長類

学会大会(1994年6月,東京). 霊長類研究
10: 125.

24) 山越言(1994): ボッソウの野生チンパンジー
集団の社会関係. 第10回日本霊長類学会大会
(1994年6月,東京). 霊長類研究, 10: 156.

25) 山根到・澤口俊之・久保田競(1994): 運動
前野背外側部へのピククリン注入により、学
習した運動が誘発された. 第72回日本生理
学会(1995年3月,名古屋,愛知). 予稿
集: pp.233

学位取得者と論文題目

京都大学博士(理学)

伏見貴夫(課程)

Acquisition of request and reject behaviors
in chimpanzees (チンパンジーにおける要求・拒
否行動の獲得)

小川秀司(課程)

Social relationships in bridging behavior
among Tibetan macaques (チベットモンキーの
ブリッジング行動における社会関係)

揚妻直樹(課程)

Feeding ecology of Yakushima macaques (*Macaca fuscata yakui*) in warm-temperate forest of Yakushima island, Japan (照葉樹林に生息するヤクシマザルの採食生態)

花澤明俊(課程)

サルおよびヒトにおける、輝度および特徴からの視覚的運動知覚

瀬戸口美恵子(論文)

Ecological studies on the introduced population of red-bellied tree squirrels in Tomogashima island (和歌山県友ヶ島の移入タイワンリスの生態学的研究)

京都大学修士

岡本暁子: チンパンジーの放飼集団における挨拶
的交渉

奥千奈美: 霊長類における頭蓋幅径の性質と意義

栗田博之: ニホンザルの1歳仔の行動と母・姉か
らの投資

山根 到: 前頭連合野起源の認知的課題の発現に
おける運動前野の働き

Gurja Belay: ニホンザル椿群の遺伝的変異性の
他群との比較

大学院コロキアム

第1回 平成6年7月6日(水)

「研究方法から見た霊長類学: 一例報告から量
的データまで」

講演者と演題

友永雅己(行動神経・思考言語)

「はじめに」

小川秀司(大学院)

「個体追跡法の今後」

森 明雄(社会生態・生態機構)

「社会変動のストーリー解析」

野崎真澄(分子生理・器官調節)

「内分泌研究法: 実験形態学的解析方法」

竹中 修(分子生理・遺伝子情報)

「生化学的研究法と分子生物学的研究法」

高井正成(進化系統・系統発生)

「計測項目と非計測項目: 化石霊長類の場
合」

毛利俊雄(進化系統・形態進化)

「旧世界ザルのラクリマル・フォッサの骨
構成」

長谷川良平(大学院)

「行動研究における実験計画法: 交互作用
の重要性について」

藤田和生(行動神経・思考言語)

「少数事例実験法」

総合討論

企画: 浅岡一雄・友永雅己(94年度カリキュ
ラム委員会)

内容: 霊長類学には多種多様な研究方法が存在
する。このコロキアムでは、霊長類学を「方
法論」という観点から考える機会を提供する
ことを目的として、各研究分野から数人の方
をピックアップして、それぞれの研究分野に
おけるデータ収集・分析の方法の紹介と利点・
欠点等について理論的立場からや実際の研究
成果から約20分程度の話題を提供してもらっ